

互いのよさを認め合う学級活動の工夫
～話し合い活動を通して（第3学年）～

宜野湾市立長田小学校教諭 金城 益美

目 次	
I テーマ設定の理由	17
II 研究目標	17
III 研究仮説	17
IV 研究の全体構想図	18
V 研究内容	19
1. 子どもの「よさ」とは	19
2. 互いのよさを認め合う学級活動にするために	19
3. 互いのよさを認め合う態度の育成	20
4. 学級活動コーナーの工夫	21
5. 計画委員会の指導の工夫	22
6. 互いのよさを認め合う学級活動の流れ	25
7. 自己評価、相互評価の工夫	26
VI 授業実践	27
1. 議題名	27
2. 議題設定の理由	27
3. 児童の実態	27
4. 学級活動（話し合い）がひらかれるまで	28
5. 本時のねらい	28
6. 授業の仮説	28
7. 本時の展開	28
8. 検証授業研究会	30
9. 仮説の検証	31
VII 研究の成果と今後の課題	36

わたしと小鳥とすずと

金子 みすゞ詩

わたしが両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがつて、みんないい。

<特別活動>

互いのよさを認め合う学級活動の工夫

～ 話し合い活動を通して（第3学年）～

宜野湾市立長田小学校教諭 金城 益美

I テーマ設定の理由

近年、子どもに見られる問題行動として、いじめや不登校などが指摘されている。これらの問題行動は、核家族化・少子化の傾向や自然体験・社会体験などの不足により、家庭・地域社会における子どもの人間関係が希薄化しているためと考えられる。

このような問題を解消するとともに、一人一人の児童の健全を図るためには、様々な人間関係を経験させることが必要である。そのため、学校教育においても、児童の望ましい集団活動が充実されるよう創意工夫が求められている。

小学校の教育課程は、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間によって編成される。それらの中で、目標に「望ましい集団活動」を掲げているのは特別活動だけである。

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」と示されている。つまり、集団活動を特質とする特別活動においては、子どもたちが友人と協力して活動する過程で、一人一人の主体性やよさを育成することをねらいとしている。

平成10年の学習指導要領改訂により、学級活動の例示に「学級内の組織づくり」が新たに加えられている。これは、子どもが主体となって話し合いの活動が展開されるように組織づくりの指導の充実を求めているものである。その中では、子どもが主体となる話し合いの活動をめざし、お互いの持っているよさを発見し、認め合い、実践意欲を高めるような話し合いの仕方を工夫する必要がある。

これまでの学級活動の実践を振り返ると、司会班を輪番制にし、どの子にも役割を体験させることで、恥ずかしがり屋の子やあまり積極的でない子も班のメンバーと協力して役割を果たすことができた。しかし、一人一人に考えを持たさないまま話し合い活動に望み、発言力のある子の意見に流されて集団決定が行われることがあった。また、自分の意見に固執し、友だちの考えのよさを認めない子どもの姿もあった。

そこで本研究では、話し合い活動において、子どもの活動意欲を高めたり、互いの考えを生かした話し合いをしたり、よさを認め励ます評価等を工夫することによって、互いのよさを認め合う子どもが育つであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

互いのよさを認め合う子どもを育てるために、話し合いの活動において、子どもの活動意欲を高めたり、互いの考えを生かした話し合いをしたり、よさを認め励ます評価等を工夫する。

III 研究仮説

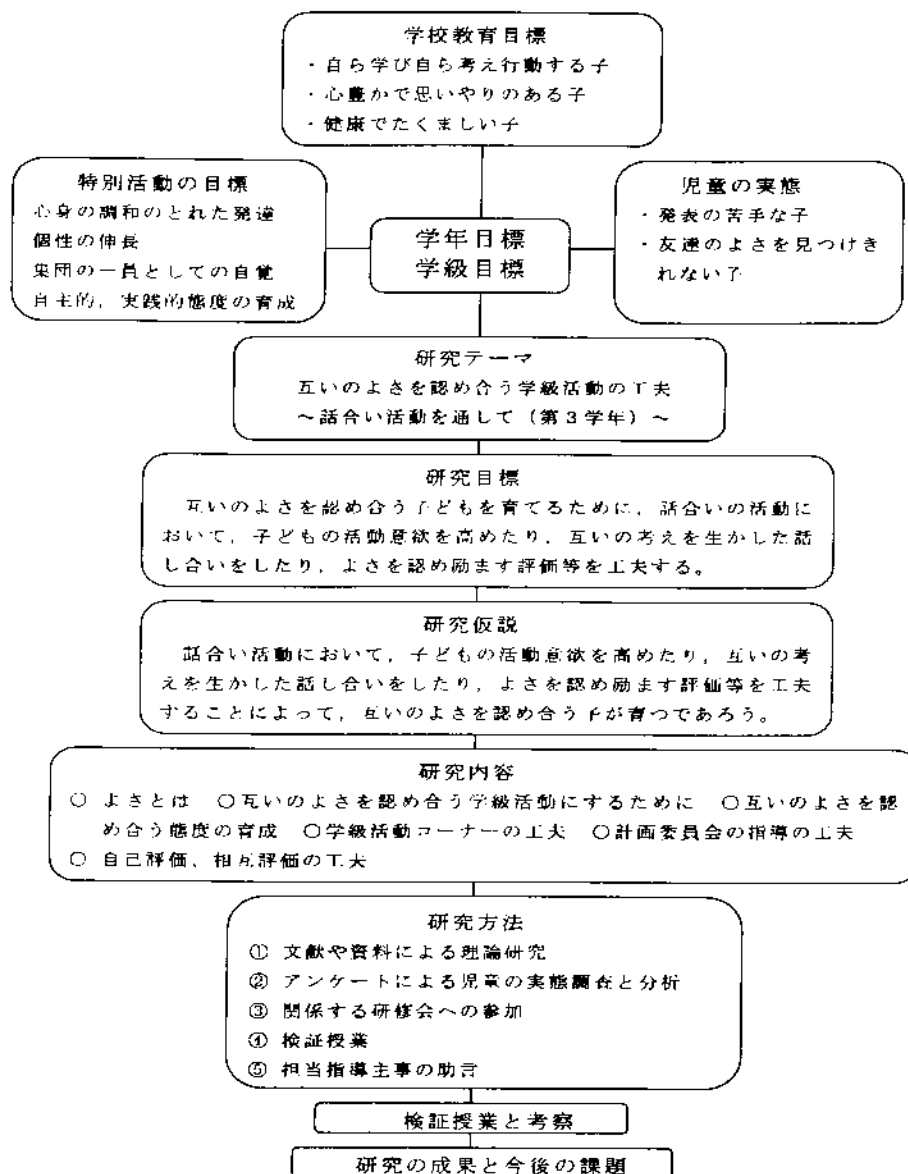
1 基本仮説

話し合い活動において、子どもの活動意欲を高めたり、互いの考えを生かした話し合いをしたり、よさを認め励ます評価等を工夫することによって、互いのよさを認め合う子どもが育つであろう。

2 具体仮説

- (1) 話し合い活動において、議題の収集や予告、友達のよさ発見カードの掲示等を行う「学級活動コーナー」を設置する等、見通しを持たせることによって、活動意欲が高まり、互いのよさが発揮されるであろう。
- (2) 「計画委員会」をつくり、話し合い活動の進め方等を事前に指導したり、役割分担化したりすることによって、見通しを持って話し合いを進めることができ、一人一人のよさを認め生かすことができるであろう。
- (3) 話し合い活動において、「学級活動カード」を活用し、事前に考えを持って話し合いの活動に参加させることによって、互いの考えを比べたり、取り入れたりして、よさを認め合う活動ができるであろう。
- (4) 話し合い活動において、子どもによる自己評価や相互評価を取り入れ、自他のよさを認め合う機会を設けることによって、一人一人のよさを生かし、互いのよさを認め合う子どもに育つであろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究内容

1 子どもの「よさ」とは

子どもの「よさ」とは、「その子なりのよさ」であり、他と比べるものではないと考える。子どもの「よさ」を「考えのよさ」と「行動のよさ」と捉え研究を進めることにする。

文部省小学校特別活動指導資料に「子供のよさは、教材のよさとともに教師や他の子供たちなどのよさとかかわりながら、高められ、豊かに育っていくものである。」と述べられている。したがって、教師は、適切な教材を選択するとともに、教師と子ども、子ども相互の人間関係を豊かにするよう配慮することが大切である。

子どもが自分のよさを自覚する時は、友達に自分のよさを認められ、集団の中で有用感や存在感を抱いた時や、他との関わりの中で達成感や成功感を抱いた時等である。互いのよさを認め合うためには、「よさ」をのびのびと出せるような学級内の雰囲気が必要である。

2 互いのよさを認め合う学級活動にするために

(1) 役割分担のある活動

井上裕吉(1995)は、「学級活動において、次に示す子どもの社会的欲求『ぼくもやりたい。私も認められたい』という多くの願いを十分充足するような活動を計画的に組織だてなければならない」と述べている。一人一人のよさを認め生かすには、学級活動の中で役割を輪番制にして、グループごとに役割体験をさせることも一つの方法である。子どもは、役割を与えられることで、自分のよさを発揮し、友だちと助け合いながら役割を果たすことで、達成感や成就感を味わい、自己の有用性を更に感じるができるようになる。

役割をもつ	＜社会的欲求の充足＞	＜役割行動の成果＞
	・・・人（友達・先生）に認められたい	・・・存在感、人への思いやり
	・・・人より優れたことをやりたい	・・・興味・関心の追求、努力
	・・・新しいこと、未知なことをやりたい	・・・知的好奇心の広がり
	・・・人に期待されることをやりたい	・・・寄与・貢献・安定感
	・・・ひとりでもやれる自身をもちたい	・・・責任感、独立心

(2) 認め合う活動

学級活動において、子ども達が発言する中で、「なるほど」と感じたり、考え方を聞いて参考になったり、さまざまなよさが現れてくる。そういった考えのよさや行動のよさを認め合える活動の場を計画し設定することが重要となる。その際、一人一人のよさは違いがあるが、どれもそれぞれ大切であることを共通理解することが必要である。

(3) 教師の言葉かけの工夫

言葉かけは、学級の雰囲気そのものを明るくしたり、暗く沈んだものとしたりする。子ども一人一人を認め、支援していくために次の5つの言葉かけ(井上裕吉 1995)を大切にする。

ア・・・子どもの心を自然に開く力（「どうということかな、どうしたのかな？」）

イ・・・うなずいて確かめていく力（「そうだ！ そのとおりだね」）

ウ・・・力強く子どもの心を引き出していく力（「できそうだ、大丈夫だ！」）

エ・・・共感し、共有する力（「だれだって、そういうまちがいはあるよ」）

オ・・・心から子どもの自立を喜ぶ力（「よくやったなあ！」「できるじゃないか」）

3 互いのよさを認め合う態度の育成

(1) 聴き方の指導

宮川八岐・有村久春（1999）は、『話し合い』の基礎・基本は、『話すこと』とともに『聴くこと』、つまり『聴き合い』の指導がより重視されなければなりません。学級活動の『話し合い』が、『聴き合い』重視になることが大切です。相手の身になって聴くことが、話の合う前提であり、『聴き方』『聴く態度』の指導を通して、理解し合い、支え合い、教え合い、助け合い、生かし合う集団活動の中で思いやりに満ちた豊かな個性の伸長が図られるものと考えます。」と述べている。

互いのよさを認め合う前提として、どんな意見でも最後まで真剣に（頭と、耳と、目と、首と、心で）聴くことが大切であることを図1、で示し、指導した。また、いつでも振り返られるよう黒板右側に掲示する。

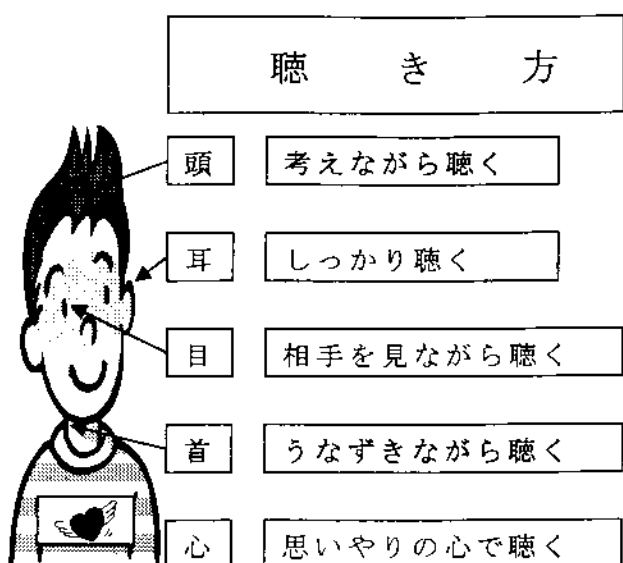


図1 聴き方

表1 発表の仕方

<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は〇〇と思います。 ・ わけは、〇〇だからです。 ・ 私は、〇〇に賛成（反対）です。 ・ そのわけは、〇〇だからです。 ・ わたしは、考えが変わりました。 ・ 〇〇さんのはなしを聴いてみると、 ・ 〇〇がよいと思いました。 ・ 〇〇さん、もう一度説明してください。 ・ 〇〇さんに質問します。 	発表の仕方
---	-------

(2) 話し方の指導

① 意見を言う場合は次の項目に留意するよう指導した。

- ・ 聴き手に伝わるように大きな声で最後まではっきり話す。
- ・ 相手の意見を大切しながら、よりよい意見を発表する。

以上の点について、実際の話し合いの場面での発表の仕方の例（表1）を示し、指導した。

表2 言葉が人間をつくる

<ul style="list-style-type: none"> ひとつの言葉を美しく ひとつの言葉を大切に やさしい言葉はやさしい心 きれいな言葉はきれいな心 ひとつの心をもっている ひとつの言葉はそれぞれに ひとつの言葉で泣かされる ひとつの言葉で笑いあい ひとつの言葉で頭が下がり ひとつの言葉で仲直り ひとつの言葉でけんかして 	言葉が人間をつくる
--	-----------

② やさしい言葉が遣えるように指導。

互いのよさを認め合うには、言葉遣いが大切であると考え、やさしい言葉、丁寧な言葉が遣えるよう、日常の学校生活で常に意識させながら指導した。「言葉が人間をつくる」

（表2）を前面黒板上方に掲示し、朝の会、帰りの会等で一斉音読を行った。

(3) 「よさ」のを見つけ方、認め合い方

「友だちやみんなのよいところを見つけ伝えよう。」と話し合い活動で提案し、話し合い、児童の自治的な活動にする。話し合いで決まったことは、以下の通りである。

① 友だちやクラスのみんなのよいところを発見する。

- ・友だちのよいところを見つけるポイント（表3）を示し、指導した。

表3 友だちのよいところを見つけるポイント

○友だちのよい考え・・・友だちがよい考えを発表していた。
○友だちのがんばり・・・友だち、クラスみんなががんばっていた。
○友だちのやさしさ・・・友だちがやさしくしてくれた。
○友だちの教え・・・まちがったことをしたとき、友だちが教えてくれた。

② 友だちやみんなのよいところを葉っぱやポケモンの紙等へ書き、帰りの会までに「3くみボックス」に入れる。それを日直が帰りの会で発表し、「3くみの木」に貼る。

- ・帰りの会等でみんなに発表し、互いのよさを認め合う場をつくとともに発見者も誉めるようにした。

③ 5枚葉（ポケモン等）がついたら、1つの「3くみ」の花をつける。

- ・3（くみ えがおで）
 - ・く（らす全員）
 - ・み（とめ合おう）
- } 花が1つずつふえることにより、認め合う心もふえていくであろう。

(4) 互いのよさを認め合う「3くみのことば」を学級に広げる。

井上裕吉（1995）の「心の通うことば運動」を参考にし、学級で子ども達が「うれしかったことば」や「やる気」の出る言葉を集め、「3くみの言葉」（表4）としてまとめ広げていく。

表4 3くみの言葉

・いっしょに遊ぼう	・だいじょうぶ？	・がんばってね	・どんまい
・いっしょに帰ろう	・やさしいね	・あきらめないで	・元気だね
・ありがとう	・たよりになるね	・挑戦してみよう	・すごーい
・手伝うよ	・おめでとう	・勇気をだしてみよう	・えらい
・明日も遊ぼうね	・天才	・よく考えたね	・楽しいね

4 学級活動コーナーの工夫

子どもたちが集団生活の中で、進んで課題を見つけ、互いに協力しながら主体的に、創造的に課題を解決できるように支援していくことが大切である。そのためには、子どもの活動意欲を高める工夫が必要である。その一つに、学級活動コーナーの活用がある。互いのよさを認め合う場としても学級活動コーナーを設置する。具体的には、以下の工夫を行った。

- (1) 意見箱を設置し、「議題カード」を常に準備しておくことにより、学級で問題になっていることに気づくようになる。
- (2) 議題に関係のある資料を掲示することで、議題に対する意欲を高める。

- (3) 「今度の話合いの議題は」、「話し合
いで決まったこと」「予定表」等を掲示
し、期待感を高める。
- (4) 「学級活動の1週間の予定表」(表5)
を掲示することで、次の話し合い活動に
向けて、計画的に仕事を進めるよう
になる。
- (5) 「係からのお知らせ」を掲示するこ
とで係活動に対する意欲を高める。
- (6) 見つけた「よさ」を掲示し、みんな
に知らせる場(3くみの木)をつくる
ことによって、お互いのよさを意識し
て見つけるようになる。

表5 学級活動のある週の活動

曜日	活動内容	活動時間
火	①議題案を集める ②集まった議題案の整理 ③議題を決める	昼休み 昼休み 帰りの会
水	④3くみ会議の計画 (計画委員会の話し合い)	昼休み
木	⑤学級活動カードを配る	帰りの会
金	⑥学級活動カードの提出 ⑦準備とリハーサル	朝 昼休み
月	⑧3くみ会議	4校時

- (7) 画用紙や紙、画鋏、ペン等の文具を用意しておくことにより、進んで活動できるよ
うになる。

5 計画委員会の指導の工夫

計画委員会の設置は、発達段階を考慮すると中学年以上が適当であるといわれている。
構成員は、司会、ノート記録、黒板記録、観察、提案者及び教師である。また、計画委
員は、全員がその役割を経験できるよう輪番制で行う。

(1) 議題提案の呼びかけ

「学級で困っていること」「学級を楽しく
すること」について、話し合っ
てほしいことを見つけ、議題
カード(表6)に書き、議題
ポストに提案するよう呼びかけた。

中学年において議題ポストを設置するとい
うことは、子ども一人一人が話し合っ
てみたいことを議題カードに書き議題
ポストに入れる活動を通して、議題
とは、話し合うことは、
どういうことかを学んでいくこと
になる。

(2) 提案された問題の処理

提案された問題について、「適切な議題の
条件」(表7)に沿ってその行方
を検討し、話し合いの議題を決
めた。全ての議題カードに
対し、お返事カード(表8)を
送った。

表7 適切な議題の条件

- ・クラスみんなが必要だと思っていること
- ・クラスみんなが興味・関心を持っていること
- ・クラスみんなの向上につながる
- ・子ども達が自分達の力で解決できること

表6 議題カード

<p>議題カード</p> <p>☆話し合い活動で、次のことを話し 合っ てみたいです。</p> <p>①議題(みんなで話し合うこと)</p> <p>②提案理由(議題を出したわけ)</p> <p>③提案者(この議題を出した人)</p> <p>◎出した日 平成 年 月 日</p>
--

表8 お返事カード

<p>()さん提案ありがとう。</p> <p>☆あなたの出してくれた議題は次 の ようにします。</p> <p>ア話し合い活動の議題になりました。</p> <p>イ()係さんをお願いします。</p> <p>ウ 朝や帰りの会で話し合います。</p> <p>エ 先生をお願いします。</p> <p>オ その他()のようにします。</p> <p>☆これからも議題を出してね。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>計画委員会()より</p>

採用されなかった議題案は、朝や帰りの会で話し合ったり係に任せたりする等、処理方法を決めた。また、その行方は、「学級活動コーナー」に掲示した。

(3) 話し合い活動（3くみ会議）に向けての準備活動

① 計画委員会全員で行った準備

計画委員会のすすめ方（表9）に従い、話し合いを行った。

ア 議題と提案理由の確認

提案者を交え、その思いや願いがみんなに伝わる内容か再検討した。

イ 話し合いのめあてと柱の決定

話し合いのめあては、「聴く」、「話す」の二つの視点から検討するように指導した。

また、話し合いの柱は、多くても3つまでと厳選し、焦点化した。

表9 計画委員会の進め方

計画委員会のすすめ方

1. はじめのあいさつ
これから計画委員会をはじめます。礼。
2. 議題表現の工夫
はじめに、話し合いの議題の表し方はこれでよいか話し合います。
3. 提案理由の検討
次に、議題を出したわけは、これでよいか話し合います。
4. 話し合い活動のめあてを決める。
次に、今度の話し合い活動のめあてを決めます。
5. 話し合いのすすめ方の計画
話し合いの柱について話し合います。1番目は、どんな柱にしますか。次は・・・
6. 時間の配分
どこで何分ぐらい話し合うか予定を立てます。どの柱に何分当てたらいいですか
7. 役割決定
次に、今度の話し合い活動では、だれが、どの役割をするか決めます。
8. 準備について
次に、準備することと、準備する人を決めます。
9. 決まったことのお知らせ
計画委員会で決まったことをいつ、だれが、学級のみんなにお知らせしますか。
10. おわりのあいさつ
これで、計画委員会をおわります。

② 役割を分担して行う準備

ア 司会は、話し合いがスムーズに進行できるように話し合いの進め方（表10）を参考にしながら、練習する。

イ 黒板記録は、話し合いの柱やめあて、計画委員会で決まったことを短冊にし、みんなに分かりやすい記録を考えて資料を作成する。

ウ ノート記録は、学級活動カード（表11）に計画委員会で決まったこと（議題、提案理由、役割、話し合いの柱等）を書き印刷をお願いする。また、話し合いの後は「話し合いで決まったこと」を書き、学級活動コーナーに掲示する。

エ 観察は、観察の進め方（表12）を参考にしながら練習をする。

表 10 話し合いの進め方

- 1, これから、第〇回、なかよし会議をはじめます。れい。
- 2, はじめに、「こどもの世界」のうたを楽しく歌いましょう。
- 3, 役割の紹介をします。司会は〇〇さんとわたくし〇〇です。黒板記録は〇〇さんです。ノート記録は、〇〇さんです。観察は〇〇さんと〇〇です。
- 4, 今日の議題をみんなで言いましょう。セーノ。
- 5, この議題を出したのは、〇〇さんです。どうして〇〇のことを話し合っほしいのか、そのわけを言ってもらいます。〇〇さんお願いします。
- 6, 〇〇さんの言ったことで質問はありませんか。
質問がないようですので、次に進みます。
- 7, なかよし会議のめあてをみんなで言いましょう。セーノ。
- 8, 今日は、話し合うことが3つあります。1つ目は〇〇です。2つ目は〇〇です。3つ目は、〇〇です。
- 9, それでは、話し合いを始めます。1の〇〇について話し合います。
何か意見はありませんか。
★新しい考えはありませんか。★質問はありませんか。
★グループ（となりの人と）話し合ってみてください。
◎それでは、〇〇に決めていいですか。よかったら拍手をしてください。
次に、2の〇〇について話し合います。3の〇〇について話し合います。
- 10, それでは、話し合いが終わりました。記録係さんから決まったことを発表してください。
- 11, 次に、発表回数の報告や話し合いでよかったことの発表を観察係さんお願いします
- 12, 今日の話し合いの反省を書いてください。3分間です。ヨーイ始め。終わり。
- 13, 最後に、先生のお話をお願いします。
- 14, これで、第〇回3くみ会議を終わります。

(4) 話し合い活動の活動計画の発表

学級活動カード（表 11）を配り、決まった議題や話し合いの柱を帰りの会に学級全体に知らせる。また、「学級活動コーナー」に活動計画を掲示する。

(5) 話し合い活動（3くみ会議）の進行と観察係

話し合いの時間は、司会が、話し合いの進め方（表 10）を参考にしながら、話し合いを進める。また、全員が話し合いに参加できるように、司会と観察係は連携し合い、指名に偏りがないように話し合いを進める。

(6) 実践活動に向けての取り組みと実践後の反省

話し合いで決まったことについて、全員がスムーズに活動できるように、全体のスケジュールを作成する。また、実践後は実践活動について反省する。

表 12 観察係のすすめ方

- ☆ めいぼの中から、発言者の名前を探し、「正」の字を書いていく。まだ、発言していない人の名前を司会に伝える。
- ☆ 男子（女子）の発表回数を言います。〇〇さん〇回、～、今日の発表チャンピオンは、〇〇さんです。★わけを言って発表している人がふえました。★全員発表していました。
★正しい姿勢で話を聞いていました。★うなずいたり、拍手をしたりして話を聞いていました。

6 互いのよさを認め合う学級活動の流れ

学級活動は、事前活動（計画委員会）、事中活動（話し合い）、事後活動（実践）と流れていく。表13のような一連の活動の中で、一人一人のよさを生かし、互いのよさを認め合う子どもに育てていく。

表13 互いのよさを認め合う学級活動の流れ

過程	子どもの活動	教師の支援
事前活動	課題集め ①学級生活の充実と向上に関する問題に気づき、課題を見つける。 ・朝の会、掃りの会、日記、係・当番活動 児童会活動、学校行事等から	○議題ポスト、学級活動コーナー等の環境を設定する。 ○課題カードを作成し、書き方を全員に教える。 ○出された議題を大切にし、決定は全員で行う。採用されなかった議題案も全員で処理方法を決める。 ○計画委員会の進め方を参考に、計画委員の自主性を尊重しながら、適宜に助言をする。 ○話し合いの柱の中で特に重要なものはどれか考えさせる。 ○一人一人が自分の考えを持って話し合いに参加できるように学級活動カードに目を通し指導・助言する。
	決定 ②計画委員会で課題を整理し、全員で決定する。	
	活動計画作成 ③話し合い活動の計画を立てる。 ・課題、提案理由、活動のめあて、柱立てと時間配分、役割分担、事前準備 ④学級全員へ実施計画の発表をする。 ⑤学級活動カードに自分のめあてと考えをまとめる。	
事中活動	はじめ ⑥話し合い事項の確認をする。 ・役割分担の紹介、提案理由の説明、話し合いのめあての確認	○議題と提案理由を再確認させ、問題点を明確にし、解決意欲を高めさせる。 ○話し合いは、聴き合いであり、関心を持って聴くことで、話し手の考えのよさを引き出すようにさせる。 ○少数意見の長所利点も取り入れて話し合うようにさせる。 ○話し合いの行き詰まりを修正し、助言をする。 ○司会グループのがんばりを賞賛する。
	展開 ⑦解決方法の話し合いをする。 ・自分の考えを発表する。 ・友達の考えをよく聴き自分の考えと比べる。 ・実践を見通した話し合いをする。	
	まとめ ⑧話し合いの反省と評価をする。 ・話し合いに対する自己評価、相互評価 ・教師による賞賛	
事後活動	実践 ⑨実践までの準備活動をする。 ⑩一人一人が役割を果たし、協力して活動を進める。	○一人一人の活動の高まりを認め合い、他人から必要とされていることを実感させる。 ○「拍手」「うなずき」で語りかけ応答する。
	評価 ⑪活動を振り返り自己評価、相互評価をする。 ⑫活動で得たものを日常生活で生かす。	

7 自己評価、相互評価の工夫

子どもが自分や友達によさに目を向け、互いによさを認め合うために、学級活動カード(表 11)を作成し活用した。このようなカードを継続して使用する中で、子どもが自分のよさや友だちのよさに触れるとともに、教師は一人一人の子どもの活動に対する認識を把握し、個に応じた指導に生かしていくことが大切である。子ども自身による自己評価は、学級活動カードの振り返り欄に3段階(◎, ○, △)で行い、感想も書いてもらった。相互評価は、話合いの終末で、観察係からその日の話合いの様子について発表してもらった。また、学級活動カードの「友だちのよさ発見」欄で相互評価を行った。

表 11 学級活動カード

第 回 学級活動カード		平成 年 月 日 () 第 校時	
議題			
提案者	ぎだいをだした人 ()		
提案理由			
役割分担	司会 () () ノート記録 () 黒板記録 () かんさつ () ()		
1. はじめのことば < 5分 > 2. うた 3. やくわりのしょうかい 4. ぎだいのたしかめ 5. ていあんりゆうのせつめい 6. はなしあいのめあてのたしかめ 7. はなしあい < 30分 > ① ② ③ 8. 決まったことの発表 (ノート記録) < 10分 > 9. 発表回数(ほうこく) (かんさつ) 10. はなしあいはんせい (全員 3分) 11. 先生のはなし 12. おわりのことば		自分の考え	
自分のめあて		友だちのよさ発見	
★話合いをふりかえって◎, ○, △をつけましょう。 ①自分のめあてが達成できた。 () ②自分なりの意見(いけん)をもち、発表(はつぷ)できた。 () ③友だちの意見(いけん)をよく聴き(き)考え(かんが)えられた。 () ④友だちの考え(かんが)のよいところがわかった。 ()			
感想			

VI 授業実践

学級活動指導案

平成 16 年 12 月 7 日(火)

長田小学校 3 年 3 組(男子 14 名 女子 16 名)

授業者 金城益美

1 議題名 「じまん大会の計画を立てよう」

2 議題設定の理由

3 年生も半ばを過ぎると、仲のよい友達同士での結びつきはより強く密接になっていくが、特定の友達とだけ仲よくしていることが多い。この時期に子ども達からは「お楽しみ会」「スポーツ大会」等の議題が出されることが予想されたが、「何か自分や友達のよいところを出し合える会ができないだろうか」と投げかけたところ、本時の議題となった。それぞれの友達のよさを見つけることを通して、学級の友達全員に目を向け、互いのよさを認め合う子どもを育てたい。

3 児童の実態

本学級は、男女間のへだたりがなく、日常の会話も自然で男女の仲は良い方である。男子は活動的で、休憩時間などほとんどの子が運動場で元気よく遊んでいる。女子は、学習時の発言は控えめだが、地道な実践面では男子をリードする。話し合い活動は一学期に 4 回行い、二学期は 3 回目で本議題は第 7 回目の話し合い活動になる。

(1) 話し合い活動に関するアンケート結果 平成 16 年 10 月 29 日 調査人員 30 名

問 1. 話し合い活動は楽しいですか。

アとても楽しい 15 名 イ楽しい 11 名 ウあまり楽しくない 4 名 エ楽しくない 0 名

問 2. 話し合い活動は必要だと思いますか。

アとても必要 23 名 イ必要 7 名 ウあまり必要でない 0 名 エ必要でない 0 名

問 3. 話し合い活動で、前もって議題を知っていますか。

アよく知っている 15 名 イ知っている 10 名 ウあまり知らない 3 名

エ知らない 2 名

問 4. 話し合い活動が始まる前に自分の考えをしっかりとっていますか。

アしっかりとっている 7 名 イもっている 14 名 ウあまりもっていない 5 名

エもっていない 4 名

問 5. 話し合い活動で、友達の意見を考えながら聞いていますか。

アよく聞いている 17 名 イ聞いている 13 名 ウあまり聞いていない 0 名

エ聞いていない 0 名

問 6. 話し合い活動で、自分の考えを進んで発表していますか。

アよく発表する 6 名 イ発表する 15 名 ウあまり発表しない 8 名 エ発表しない 1 名

問 7. 話し合い活動で自分のよいところを発揮できましたか。

アよくできた 12 名 イできた 7 名 ウあまりできなかった 9 名 エできなかった 2 名

問 8. 話し合い活動で、友達のよいところを見つけましたか。

アよく見つけた 11 名 イ見つけた 14 名 ウあまりみつけなかった 3 名

エ見つけなかった 2 名

(2) 考察

- ① 問1の話し合い活動が楽しいと答えたのは26名で、その理由として、「クラスみんなが一つになれるから」「みんなで話し合いゲームやルールを決めるから」「司会や観察ができるから」「席がコの字型になるから」を挙げている。反対に4名の児童は「あまり楽しくない」と答え「手を挙げても司会が当ててくれないから」という理由である。司会は発言回数の少ない児童から指名を行っていきこうとクラス全員の共通理解を図った。
- ② 問2の結果から、話し合いの必要性を認めている児童が100%と見た以上が高かった。しかし、問3、問4、問6の結果からわかるように、話し合いに対する興味・関心が薄く、参加意欲の低い児童がいることがわかった。このことから、話し合い活動において、子どもの活動意欲を高める工夫の必要性を強く感じた。
- ③ 問7の話し合い活動で自分のよいところを発揮できたと答えた児童は19名で、その理由として「発表をがんばった」「言いたいことが言えたから」を挙げている。反対に11名の児童が「あまりできなかった」と答え「緊張してできなかった」「司会に当ててもらえなかった」という理由である。
- ④ 問8の話し合い活動で友だちのよいところを見つけたと答えた児童は25名で、その理由として「友達の声が大きかった」「発表を頑張っている人が増えたから」「いつも小さな声の人が観察係を頑張っていた」「司会を頑張っていた」「〇〇さんの意見でいいところを見つけた」を挙げている。反対に5名の児童が「あまり見つけなかった」と答え「見ていなかったから」という理由であった。このことから、よさを見つけさせるには、よさを見つけるポイントを示し、互いによさを認め合い、高め合うことが大切であると考えた。

4 学級活動(話し合い)がひらかれるまで

- (1) 議題提案の呼びかけ<H16.11.10(水) 帰りの会 全員>
- (2) 議題案を知らせ、議題を決める<H16.11.11.(木) 朝の会 全員>
- (3) 計画委員会<H16.11.29(月) 昼休み 計画委員会Bチーム 議題提案者>
- (4) 活動計画の発表と学級活動カードを配る<H16.12.1(水) 帰りの会 全員>
- (5) じまん大会のアンケートを取り、まとめ、学級活動コーナーに貼る<H16.12.2(木)朝帰りの会>
- (6) 学級活動カードの提出<H16.12.3(金) 朝>
- (7) 話し合いに向けての準備活動<H16.12.3.(金) 昼休み 計画委員会Bチーム>

5 本時のねらい

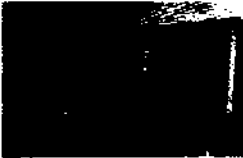


- (1) 学級のみんなが楽しくなるようなじまん大会の計画を立てることができる。
- (2) 一人一人が友達の意見をよく聴いて、自分の考えを発表できる。

6 授業の仮説

- (1) 各自が学級活動カードを活用しながら、ルールに沿った話し合いを進めることにより、互いの考えを比べたり、取り入れたりして、よさを認め合う活動ができるであろう。
- (2) 話し合い活動において、子どもによる自己評価や相互評価を取り入れ、自他のよさを認め合う場を設ければ、一人一人のよさを生かし、互いのよさを認め合う子どもに育つであろう。

7 本時の展開

第7回	3くみ会議(話し合い)の計画	12月7日(火)2校時
議題	じまん大会の計画を立てよう	
提案者	久田純那	

提案理由	みんなに自分の得意なことを知ってもらえば、自信が持てて、楽しくなると思います。それに、みんなのよい所がたくさん集まれば、もっと明るくよいクラスになると思い、提案しました。		
役割分担	司会 宮田貴道 島袋遼 ノート記録 内間華菜	黒板記録 米須果鈴 観察 比嘉まこ 渡久地秀哉	
話合いのめあて	○友だちの話を最後まで聴こう。 ○自分の考えを進んで発表しよう		
過程	活動内容	教師の支援	評価の視点
はじめ 五分	1. はじめの言葉 2. 歌を歌う 3. 役割の紹介 4. 議題の確認 5. 提案理由の確認 6. めあての確認 7. 話合いの柱の順序の確認	・明るく元気な声で号令をかけさせる。 ・歌を歌うことによって、雰囲気盛り上げる。 ・役割を自覚するとともに、自信をもたせる。 ・全員が問題意識を持って話合いに参加するようしっかりと確認させる。 ・話合いの見通しを持たせる。	 ・めあてをよく理解している。 ・見通しを持つことができる。
展開 十分	8. 話合い ①いつ、どこですか ②どんな自慢をするか  ③どんなプログラムにするか	・話合いは、聴き合いであり、関心を持って聴くことで、話し手の考えのよさを引き出すようにさせる。 ・少数意見の長所利点も取り入れて話し合うようにさせる。 ・話合いの行き詰まりを修正し、助言をする。	・学級活動カードに自分の考えを書いている(関心・意欲・態度)(思考・判断) ・自分の考えと友達のを比べながら聴き、発言しようとしている。(関心・意欲・態度)(技能・表現)
まとめ 十分	9. 記録から決まったことの発表 10. 観察からの発表 11. 話合いの反省を書く 12. 先生からのお話 13. 終わりの言葉	・今の段階でのまとめを行い、全体に伝えることでもう一度確かめる機会とする ・発表回数とよさを取り上げ、集団活動への意欲を高める。 ・できるだけ具体的に友達のよさを書かせる。 ・発言した勇気、協力的で認め合う態度など、一人一人に目を向け賞賛と激励をする。 ・実践に向けて、意欲を高めさせる。	・分かりやすく説明できる。  ・学級活動カードで話合いを振り返り、自分のがんばりや友達のよさがわかる。(知識・理解)

評価 ・学級のみなが楽しくなるようなじまん大会の計画を立てることができたか。

・一人一人が友達の意見をよく聴いて、自分の考えを発表することができたか。

8 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

- ① 子ども達がよく聴き、よく発表していた。
- ② 司会は、初めてチャレンジする子であったが、前もって「話合いのすすめ方」で練習して望み、頑張ってくれた。同じ意見が出たとき、「他に意見はありませんか。隣の人と話し合ってみてください。」と自分たちなりに解決していこうとしていた。
- ③ 司会グループの頑張りだけでなく、友達の意見をよく聴いていた子や意見を分かりやすく発表できた子、みんなのことを考えて発表していた子等をその場で具体的に認め励ましてあげればよかった。

(2) 意見及び感想

- ① 聴き方、発表の仕方等の掲示物が黒板横にあり、いつでも子ども達が確認できるように環境が整っている。
- ② 話し方のルールが身についている。
- ③ 「どんな自慢をするか」の話合いの中で、うまくできそうにない子も意識した意見やチャレンジすることの大切さ等の意見も出されていた。
- ④ 学級活動カードによさを書かせることもいいことだが、話合いの中で自己評価させてもいいのではないか。例えば、「自分の意見を振り返り、友達の意見を聞いて私の考えは変わりました。」あるいは、「途中で自分の考えが変わった人はいませんか。」といった具合に教師が尋ねてみるのもいいのではないか。
- ⑤ 掲示物にも人間的温かみ、学級経営方針を感じる。今日の話合いの中でどうでもいいことでも子ども達は一生懸命意見を出そうとする。その積み重ねが大切でいい経験になると思う。

(3) 質疑応答

Q1 掲示物の中の「友達のよいところを見つける木」の日頃の扱い方と今後の扱い方は？

A 帰りの会のプログラムに位置づけている。(友達のよさを葉等に書き、帰りの会までに「3くみボックス」に入れる。それを日直が帰りの会で発表し、木に貼る)。今後の扱いは、最終的には図工の作品集によさの葉を貼り、3年生の思い出とする。

Q2 意見を発表できなくてもしっかり聴くという姿勢も大切にしたいほうがいいのではないか。

A 「学級活動カード」の自分のめあての中で、聴くことを一生懸命やったと評価してる子を全体の前でほめている。

Q3 お互いのよさを認め合う活動とあるが、本時の話合い活動ではどこで認め合っていたのか。

A 子どもよさを「考えのよさ」と「行動のよさ」として捉え、話合い活動では、「考えのよさ」をみた。例えば、出る順番を決める話合いで、①番号順、②やりたい人から、③人数の多いグループから、④人数の少ない人からと意見が出たが、最終的には、出る順番を④の方法でやることに決まった。①～③までの考えの子は、自分の考えに信念をもっていたが④の考えのよさ(発表人数を増やしていくと盛り上がり、楽しくなるから)にふれ、自分の考えを変えた。このように、相手の考えのよさを認め合っていた。

Q4 司会は前もってシナリオを渡しておくのか。

A どの子も司会ができるように前もって計画委員会で練習し、シナリオを配布している。

Q5 相反する意見を両方取り入れるようなまとめ方をしていないのか。

A 教師が第5回目の話し合い活動で、AとBのどちらの意見もよいというCの考え方を紹介した。その時、子どもがCの考えもあるんだ。すごいと感想を書いていた。それを全体の場でほめ、Cの考えもあることを伝えた。

Q6 普段の授業の中でもお互いのよさを認め合おうとする雰囲気作りはしているのか。

国語の授業の中で、金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」という詩を使い、「みんなちがってみんなよい」ことを学びあった。だれでもよさがあることを知らせ、よさを認め合う雰囲気作りを意識して学級経営している。

Q7 児童の実態→手だて→検証となるのだが、今回子どものどのような変容が見られたのか？

A 一学期の話し合い活動では、ピントのずれた意見も多く出されたが、学級活動カードを活用し事前に考えをもって話し合い活動に参加させた結果、男子が積極的に自信を持って発表するようになった。学級活動コーナーを設置することにより、友達のよさに目を向け、議題の対する興味・関心が高まった。

Q8 「友達のよさ発見」と学級活動カードにあるが、このような評価の仕方は今回が初めてか。

A 一学期は取り組んでいない。今回が3回目である。

(4) 指導助言

①成果

- ・仮説の中にある「子どものよさ」とは性格、特技等色々あるが、「話し合い活動の中でのよさ」を考えのよさ」と捉え、話し合い活動で子ども達の多種多様な経験、考えをよく出せるような手立てを講じている。子ども達一人一人技術的には未熟であるが(手だての中で)一生懸命発表しようとしている。
- ・話し合い活動の見通しを持たせ、活動意欲を高めるための掲示活動がうまく生かされている。
- ・司会は輪番制で、司会のシナリオがあり全ての子が挑戦できるための手だてでよい。

②課題

- ・提案理由を掲示し、論点がずれた時は提案理由にもどる等の教師の手立てが必要である。
- ・話し合いの柱を検討する。プログラムの順番や司会はだれにするかは内容が浅い。浅い内容は計画委員会で案を練り提案させる。軽く扱う内容と、深める内容を見極め、話し合いを高める工夫をしてほしい。
- ・話し合い活動は企画が大切である。4月でしっかりやれば子どもは経験を生かしながら友達のよさを認めるようになり、多様な見方ができるようになる。そこが個が変わっていく(変容していく)部分である。読書とは違い、話し合いはフェイス to フェイスである。その話し合いの中から相手のよさを認める活動ができる。
- ・まとめの「話し合いの反省を書く」場面で、教師が机間巡視をし、よい評価の書かれた内容を見つけ子どもの声でその場で発表させるというやり方もある。

9 仮説の検証

本研究は、話し合い活動において、子どもの意欲を高めたり、互いの考えのよさを生かした話し合いをしたり、よさを認め励ます評価等を工夫することによって、互いのよさを認め合う子の育成を目指して、次の四つの具体仮説を立てて研究テーマに迫ってきた。実践前後のアンケート調査等から児童の意識の変容を考察し、仮説の検証をした。

(1) 具体仮説1の検証

話し合い活動において、議題の収集や予告、友達のよさ発見カードの掲示等を行う「学級活動コーナー」を設置する等、見通しを持たせることによって、活動意欲が高まり、互いのよさが発揮されるであろう。

図2より、「話し合い活動は楽しいか」の事前調査では、「とても」楽しいと答えた児童が50%であったのに対し、事後調査では93%と変容した。理由を記述式で回答してもらったところ、「提案したことがいつするかわかる」「僕(私)の意見がよいと言ってくれるから」「友だちのよいところを見つけられるから」「色々なことを話し合うから楽しい」等と答えている。「学級活動コーナー」(写真1)を設け、子どもたちが活動した足跡(①計画表や②決まったこと、③出された議題の処理や④議題関係資料等)を掲示し、見通しを持たせることにより、活動意欲が高まり、児童に変容をもたらしたと考えられる。

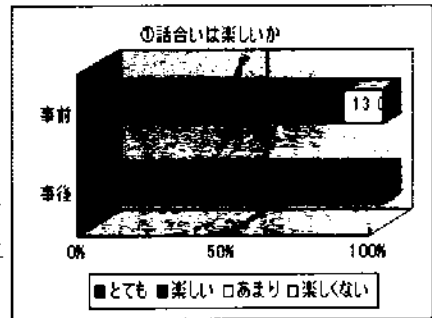


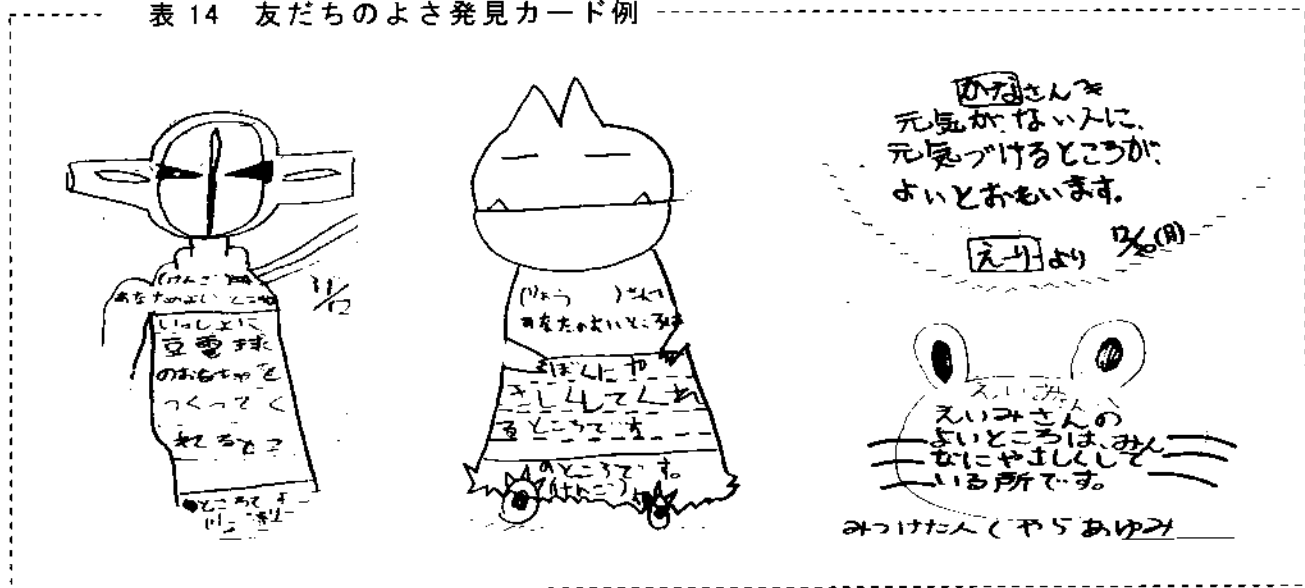
図2 話し合い活動は楽しいか

また、「学級活動コーナー」(写真1)に友だちの「よさ」(表14)を掲示し、みんなにも知らせる場をつくることによって、お互いのよさを意識して見つけるようになり、互いの関わりに認め合う態度が見られるようになった。



写真1 学級活動コーナーの様子

表14 友だちのよさ発見カード例



(2) 具体仮説2の検証

「計画委員会」をつくり、話し合い活動の進め方等を事前に指導したり、役割分担化したりすることによって、見通しを持って話し合いを進めることができ、一人一人のよさを認め生かすことができるであろう。

図3より、「話し合い活動の進め方が分かるか」の事前調査では、「よく」と「わかる」を合わせた児童が73%であったのに対し、事後調査では97%と変容した。これは、計画委員会を輪番制にして児童全員が計画委員を経験したためと考えられる。経験後は、話し合いの進め方が分かり、受容的な話し合いの雰囲気が見られるようになった。また、自分たちで解決したいという意欲が高まり、見通しを持って話し合いを進めることができたと考える。

図3 話し合いの進め方がわかるか

今回、「計画委員振り返りカード」を活用して、児童の自己評価・相互評価を実施した。表15の児童の感想から、「司会をやって楽しかった。自分ができるか心配だったができたのでうれしかった。」「みんなが見やすいように大きな字で書いた。今度は観察をやりたい。」のように、児童は、役割を与えられることで、自分のよさを発揮し、友だちと助け合いながら役割を果たすことで、達成感や成就感を味わっていることがわかる。

また、写真2、計画委員の仕事の様子からも、児童ひとりひとりが自分のよさを発揮し、生かしていることがうかがえる。

表15 計画委員振り返りカード

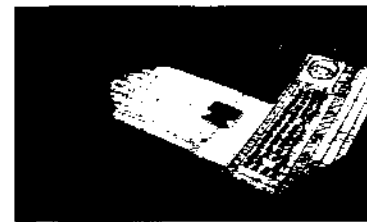
計画委員ふりかえりカード	計画委員ふりかえりカード
<p>1. 一人で自分のやくがができた。</p> <p>2. グループの仲間と協力して活動できた。</p> <p>3. かんどう(思ったこと・自分ががんばったこと)</p> <p>4. 友だちのよさ発見</p>	<p>1. 一人で自分のやくがができた。</p> <p>2. グループの仲間と協力して活動できた。</p> <p>3. かんどう(思ったこと・自分ががんばったこと)</p> <p>4. 友だちのよさ発見</p>



<計画委員会の様子>



<司会の練習風景>



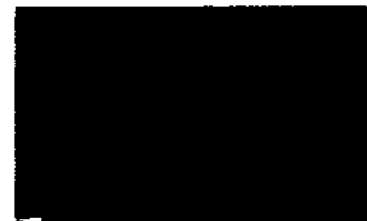
<観察の様子>



<ノート記録の様子>



<黒板記録の準備の様子>



<話し合い活動のグッズ>

写真2 計画委員の仕事の様子

(3) 具体仮説3の検証

話し合い活動において、「学級活動カード」を活用し、事前に考えを持って話し合いの活動に参加させることによって、互いの考えを比べたり、取り入れたりして、よさを認め合う活動ができるであろう。

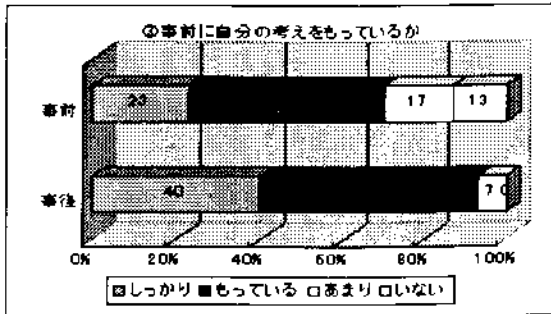


図4 事前に自分の考えを持っているか

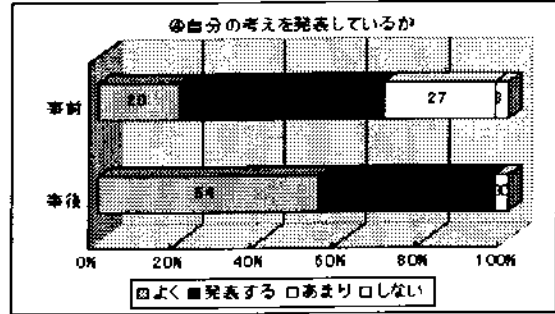


図5 自分の考えを発表しているか

学級活動カード(表11)を活用することによって、「事前に自分の考えを持っているか」(図4)の事前調査では、「しっかり」と「もっている」を合わせて70%であったのに対して事後調査では、93%と変容した。また、「自分の考えを発表しているか」(図5)の事前調査では、「よく」と「発表する」を合わせて70%であったのに対して事後調査では、97%と変容した。理由を記述式で回答してもらったところ、「自分の考えを発表したい」「話し合いが楽しい」「自分の意見も役に立つ」と回答している。さらに、表16のような教師が書き込んだコメントがあると自信を持って発表できるという児童もいて積極的な発表へとつながった。発表の様子も友達の発表を聞いて賛成や反対をしたり、質問や付け加えの発表をしたり、活発な話し合い活動が見られた。

表16 学級活動カードの中の「自分の考え」

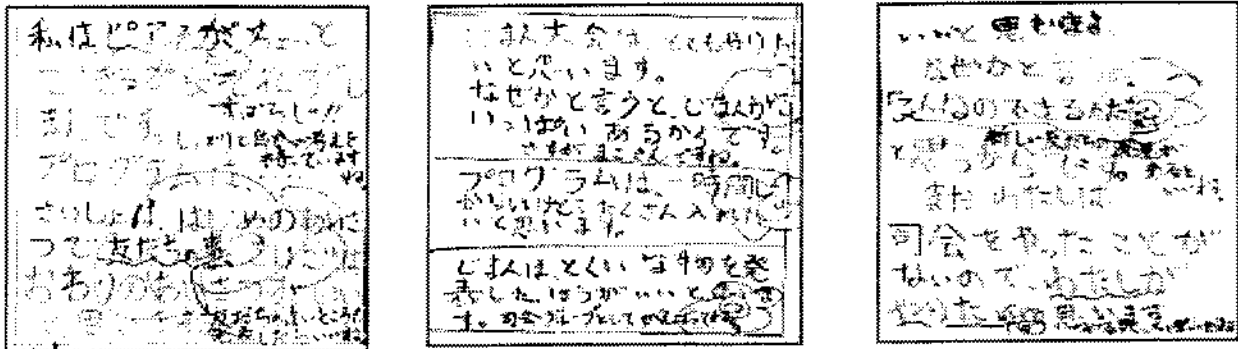


図6より、「友達の発表を聞いて自分の考えを変えたことがあるか」の事前調査では、「よくある」と「ある」をあわせて50%であったのに対して、事後調査では、80%と変容した。自分の考えと比較しながら話を聞くことができるようになり、自分中心の考えから相手の考えを認め、深めていくことができるようになったと考える。また、互いの考えの相違点や共通点に気づき、よりよい意見をみんなでもとめていくという話し合いの楽しさを感じてきている。

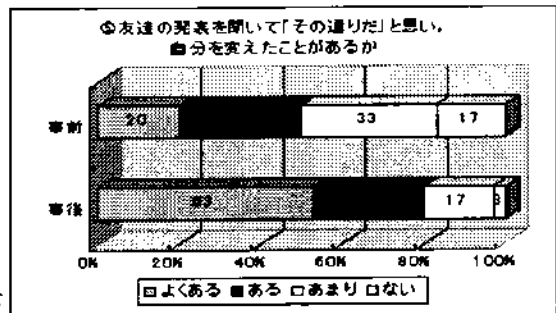


図6 友達の発表を聞いて「その通りだ」と思い、自分を変えたことがあるか

(4) 具体仮説4の検証

話し合い活動において、子どもによる自己評価や相互評価を取り入れ、自他のよさを認め合う機会を設けることによって、一人一人のよさを生かし、互いのよさを認め合う子どもに育つであろう。

図7より、「友達のよいところを見つけたか」の事前調査では、「よく」と「見つけた」を合わせて83%であったのに対して、事後調査では97%と変容した。理由を記述式で回答してもらったところ、「友達のよいところを書いたから」「友達の意見をよく聴いていたから」「友達のよいところを見つけると楽しいことがあるから」等と答えている。自己評価や相互評価を取り入れ、自他のよさを認め合う場を設けることは、よさを認め合う子どもの育成に有効であると考えられる。

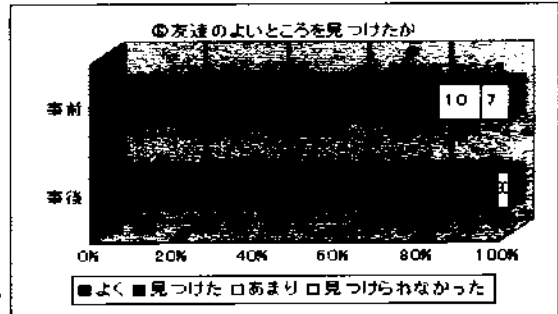


図7 友達のよいところを見つけたか

今回、「学級活動カード」(表11)の中の自己評価欄や相互評価欄を活用して、児童の自己評価・相互評価を実施した。表17の「話し合いでの自分のめあて」から、「三回以上発表する。」「自信を持って発表したい。」のように、児童は話し合い活動に、自分のめあてを持ち意欲的に参加していることがわかる。また、表17の「感想」から児童は、「自分の力を出しました。」「前までは3回も発表できなかったけど、初めて3回も発表できた。」「とても楽しかった。」と自分自身で満足している様子が見える。さらに、表17の「友だちのよさ発見」から、「〇〇さんは言いたいことを言っている。」「〇〇さんは発表を頑張っていた。」「みんないろいろな意見を持ち発表できたことがいい。」と友だちのよさを認めていることがわかる。このような評価を行うことによって、お互いに一人一人のよさを認め合い、好ましい人間関係をつくり、受容的な話し合いの雰囲気が見られるようになった。

表17 自己評価と相互評価例

<p>話し合いでの自分のめあて 自分のめあてを達成した。</p> <p>友だちのよさ発見 〇〇さんはきくしやがよかた。</p> <p>感想 前までは3回も発表できなかったけど、初めて3回も発表できた。</p>	<p>話し合いでの自分のめあて 三回以上発表する。</p> <p>友だちのよさ発見 〇〇さんは言いたいことを言っている。</p> <p>感想 とても楽しかった。</p>
<p>話し合いでの自分のめあて はひょうげを聞いてもらう。</p> <p>友だちのよさ発見 〇〇さんは発表を頑張っていた。</p> <p>感想 自分の力を出しました。</p>	

写真3 話し合いの終末で自己評価・相互評価を行っている様子

Ⅶ 研究成果と今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 学級活動コーナーを設け、見通しを持たせることにより、児童の活動意欲が高まった。また、友だちのよさの掲示活動を通し、互いの関わりに認め合う態度が見られた。
- (2) 計画委員会を輪番制にして児童全員が計画委員を経験することで、話合いの進め方や司会グループの気持ちが分かり、受容的な話し合いの雰囲気が見られた。
- (3) 学級活動カードを活用し、事前に自分の考えをまとめることで、進んで発表する児童が増えた。また、教師の励ましのコメントで自信を持って発表する児童も増えた。
- (4) 児童による自己評価、相互評価を取り入れることにより、自分のよさ、友達によさに目を向けるようになり、お互いを認め合う心が育ってきた。

2. 今後の課題

- (1) 子ども自ら話合いができるように年間を見通した計画的な運営の仕方。
- (2) 子どもの意見が活発になるような話合いの柱の決め方。
- (3) 他の教科との関連において「話すこと・聞くこと」の指導方法。

3. 終わりに

十月からの半年間、学校現場を離れ、「互いのよさを認め合う学級活動の工夫」について研究をしてきました。この期間に理論研究やコンピュータの操作法の習得や多くの講座の受講等私にとって大変有意義な研修でありました。ここでの経験を今後の教育実践に生かしていきたいと思えます。

このような研修の機会を与えて下さった宜野湾市教育長の普天間朝光先生、宜野湾市立教育研究所所長の宮城茂雄先生、長田小学校校長の平良冨子先生、並びに長田小学校の職員のみなさん、検証授業に協力して下さい下さった比嘉貞二先生と3年3組の子供達に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

本研究を終えるにあたり、県立総合教育センター研究主事の田中浩三先生には、テーマ設定から、研究の進め方、実践、まとめまで丁寧なご指導とご助言を頂きました。田中先生の「常にテーマや仮説を意識した理論や実践を進めること」という言葉に励まされ、研究を進めることができました。メールでのきめ細かなご指導もありがとうございました。深く感謝申し上げます。

また、研究の進め方や論文のまとめ方などご指導ご助言を頂き、優しく支えて下さった教育研究所主事の上原等先生に感謝致します。パソコンはヘルプデスクの小谷良太郎さんに丁寧に何度も教えて頂きました。

さらに、縁あって、共に研究の日々を過ごすことになった金城勇一先生、バレット・文野先生、前幸三先生、いつも笑顔で励まして下さった研究所職員のみなさんに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

<主な引用文献と参考文献>

- | | | | |
|-----------|----------------------------------|----------|------|
| 井上裕吉 | 『子どものための楽しい「学級活動づくり」中学年編』 | 明治図書出版 | 1995 |
| 宮川八岐 | 『個性を生かす教育と集団思考』 | 教育出版株式会社 | 2003 |
| 宮川八岐・有村久春 | 『小学校新学習指導要領Q&A特別活動編』 | 教育出版 | 1999 |
| 倉田侃司 | 『見てわかる教室環境づくりアイデア集 小学校』 | 明治図書出版 | 1994 |
| 文部省 | 『小学校特別活動指導資料 新しい学力に立つ特別活動の授業の工夫』 | | 平成7年 |